

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、5月2-3日に開いたFOMC(米連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を4.75-5.00%から5.00-5.25%へ、0.25%上げることを決定しました。全会一致での決定となり、10会合連続の利上げとなりました。

声明文では、経済環境について3月のFOMCと同様に引続き底堅いことを示し、また家計や企業の信用状況の悪化の影響は依然として不透明であるものの、経済活動、雇用、インフレに影響を与える可能性があるとの見方も維持しました。一方で、前回記載されていた「委員会は、いくつかの追加的な引締めが適切であるかもしれないと予想している」との文言が削除され、今後の追加的な利上げを停止する可能性を示唆しました。

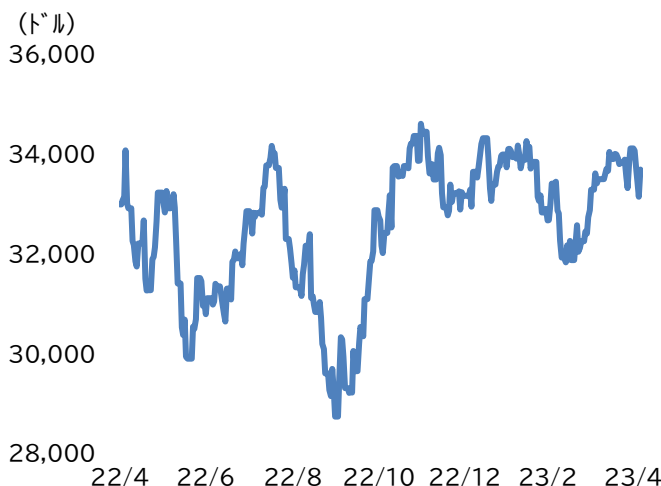
会合後のパウエル議長の記者会見では、「追加的な引締めが適切であるかもしれないと予想している」という文言が削除されていることは意味のある変化であると表明し、今後の利上げに対する姿勢に関しては「今回引上げた政策金利が十分に抑制的な水準かどうかを判断するには数か月分のデータの蓄積が必要」との見方を示しました。

市場の反応

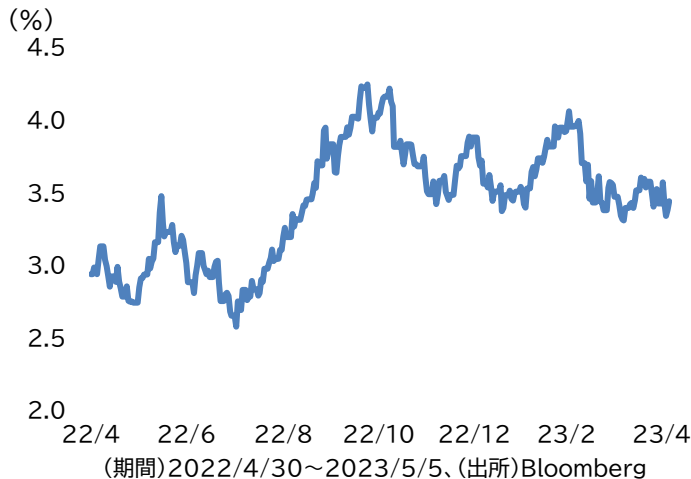
パウエル議長が利上げの停止を示唆する一方で、早期の利下げ転換には否定的な見解を示したこともあり、金融引締め状態が長引くとの警戒感が広がり、NYダウは前日比270.29ドル安の33,414.24ドルとなりました。

債券市場では、追加的な利上げの停止が意識されたことから、米国10年国債利回りは前日より0.09%低い3.34%となり、ドル円は円高ドル安傾向となり135円近辺で推移しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



評価及び今後の見通し

今回のFOMCは事前予想通り3会合連続の0.25%の利上げを実施し、FF金利の誘導目標は5.00%-5.25%と2023年3月に公表されたドットチャート(FOMCメンバーによる政策金利の予想分布)の2023年末の予想水準に達しました。今回示されたFF金利の誘導目標はリーマンショック前の2007年8月と同じ水準となり、金融環境の引締め度合いは強くなっています。一方で、インフレ率はピークアウトの兆しがうかがえるものの、その水準はいまだに高く、雇用関連の経済指標は底堅く推移しています。

今回のFOMCでは今後の利上げ停止の可能性が排除されなかったこともあり、FF金利先物市場では先行きの利上げ停止や利下げが織り込まれていますが、今後公表されるインフレ率が想定以上に堅調であったり、そのほかの経済指標で力強い結果が確認された場合には、利上げ懸念が再び台頭し、金利には上昇圧力がかかる可能性があります。

次回6月のFOMCでは、ドットチャートやFOMCメンバーによる経済見通しが更新されます。利上げの始まった2022年3月以降はインフレの見通しが常に上方修正されてきたことから、今後のFRBの金融政策に対する姿勢を確認するうえで注目されます。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
6/13-14	FOMC
6/15	ECB理事会
6/15-16	日銀金融政策決定会合

出所:Bloomberg